

会報第16号発刊に寄せて

会長 K/T

平成19年は、日本だけ一つとっても、実に様々なことが起こった1年でした。

しかし、私達

新津ハイキングクラブは、2・3月の月例と、3月の山行一つを残して、会としての山行を無事終了しました。ここに、平成19年度ハイキング・登山の活動の歩みを、「山行記録 第16号」としてまとめることが出来たことを、喜びたいと思います。ここに至るまでの幹事さんの皆さん、各係・担当の皆さん、全ての会員の皆さん、そして直接的には広報の皆さん、それぞれのご尽力・ご協力に心から感謝し、御礼申し上げます。

「丈夫で長生き」これは昔も今も変わらない、人々の願いですが、その言葉の奥には、単に「生物的に」だけでなく、「張り合いをもち、心豊かに」ということを含んでいるはずです。

山歩きがブームになって久しく、今なお一定の水準で、人々の関心を引き付けています。

また、心の癒やしとしての自然は、今や、山やそれに準ずる所にしか求め得ない、という現実があります。ですから、自然の中へ入って行く“山歩き”は「丈夫で長生き」と「張り合いをもち、心豊かに」という両方に、共に応えてくれるものとして、これからもずっと私達の励みとなってくれることでしょう。

新津ハイキングクラブが、私達のそのようなニーズの受け皿の一つとして発足したのは平成8年3月24日ですので、以来、満12年が経過したことになります。その間“年々発展・充実して”といたいところですが、かならずしもそうとは言えません。そのへんのことについては、先に「ハイク通信16号」(平成19年8月10日発行)で、T/T 副会長の指摘されたところでありますが、その後、状況は依然としてそのままであるように思われます。

また、今年度は、4月の段階で幹事都合による中止が12コースでて、止むを得ない事情とはいえ、大変申し訳ないことでした。これについては、各幹事それぞれに用務のある中、少しでも皆さんの期待を無にしないようにと、7コースだけは手当てすることができ、これはボランティア精神以外の何物でもなく、実にありがたいことでした。

ことほどさように、私達の会は、諸事務も含めて幹事の奉仕の気持と、会員の皆さんの相呼応する協力で成り立っていることを、強く感じるのであります。

いずれにせよ、それはそれとして、この「山行記録」が、私達のこの1年間の活動の良きモニュメントであることに変わりはなく、また、これからの活動への良き刺激、良き水先案内ともなってくれることを願っています。